

學 生 便 覽

昭和43年度

大阪外國語大學

学 生 便 覧

1 9 6 8

大 阪 外 国 語 大 学

大阪市天王寺区上本町八丁目

電話天王寺(772) { 1271 (代表)
 { 1270 (二部)

目 次

大阪外国語大学学則	1
昭和43年度授業の履修と単位の修得	12
昭和43年度学科目・授業科目と履修単位	15
卒業論文に関する規程	27
教職課程に関する解説	28
昭和43年度講義題目	35
講義内容要旨	80
職員組織	119
学生心得	139
附属図書館	173
自治会規約	183
体育会規約	189
同窓会会則	194
教官住所録	197

昭和43年度授業時間割（附表二）

大阪外国語大学々則

第1章 総 則

第1条 本学は外国の言語とそれを基底とする文化一般について、理論と実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通じて外国に関する理解を深めることを目的とする。

第2条 本学に外国語学部を置き、学部に次の学科を置く。

(第1部)

中国語学科(50)	朝鮮語学科(15)
モンゴル語学科(15)	インドネシア語学科(20)
インド・パキスタン語学科(35)	タイ語学科(15)
ビルマ語学科(15)	アラビア語学科(15)
ベルシア語学科(15)	英語学科(60)
ドイツ語学科(25)	デンマーク語学科(15)
フランス語学科(35)	イタリア語学科(15)
イスパニア語学科(50)	ロシア語学科(50)

(第2部)

中国語学科(30)	英語学科(70)
ドイツ語学科(30)	フランス語学科(30)
イスパニア語学科(30)	ロシア語学科(30)

第3条 本学に入学させる学生定員は毎年次のとおりとする。

第1部 445名

第2部 220名

第2章 学年学期及び休業

第4条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第5条 学年を次の2期に分ける。

第1期 4月1日から9月30日まで

第2期 10月1日から翌年3月31日まで

第6条 学年中の休業日は次の通りとする。

- 1 日 曜 日
- 2 国民の祝日
- 3 本学創立記念日 11月11日
- 4 夏期休業 7月11日から9月11日まで
- 5 冬期休業 12月21日から翌年1月10日まで
- 6 春期休業

春期休業及び臨時休業については、その都度これを定める。

第3章 学 科 課 程

第7条 本学の全課程は4年(第2部は5年)とし、前期2年(第2部は3年)、後期2年に分ける。前期の課程を修了した者でなければ後期の課程には入れない。

第8条 授業科目は一般教育科目、専門科目及び保健体育科目に分ける。

第9条 全課程修了の認定を受けるためには、4年以上(第2部は5年以上)在学し最低限度次表の単位を取得しなければならない。

(第1部)

科 目	単 位 数		
	前 期	後 期	計
一般教育科目	36	—	36
専 門 科 目	36	72	108
保 健 体 育 科 目	4	—	4
計	76	72	148

(第2部)

科 目	単 位 数		
	前 期	後 期	計
一般教育科目	36	—	36
専 門 科 目	40	64	104
体 育 科 目	4	—	4
計	80	64	144

第10条 1年の授業は30週を下らないものとする。

授業は1週1時間15週をもって1単位とする。ただし教室内の作業を主とする科目については1週2時間15週、体育実技については1週3時間15週をもって1単位とする。各科目別の単位数は毎学年始に指定する。

第11条 一般教育科目は各学科共通とし、次の各系に掲げる学科目について、それぞれ3科目（12単位）以上、合計9科目（36単位）以上を選択して、前期2年間（第2部は前期3年間）に履修しなければならない。

ただし、年度によって開講しない学科がある。

A 人文科学系

哲 学	論 理 学	倫 理 学
心 理 学	宗 教 学	言 語 学
歴 史 学	国 史 学	東 洋 史 学
西 洋 史 学	考 古 学	文 学
国語国文学	美 術	音 楽

B 社会科学系

法 学	政 治 学	経 営 学
経 済 学	商 業 学	貿 易 論
社 会 学	人 文 地 理 学	

C 自然科学系

数 学	物 理 学	生 物 学
人 類 学	天 文 学	地 学
自然科学概論	自然科学史	統 計 学

第12条 専門科目は、各学科共専攻科目（卒業論文を含む）、兼修外国語及び専門教育科目に分ち、それぞれ最低次表の単位を取得しなければならない。

(第1部)

科 目		単 位 数		
		前 期	後 期	計
専攻科目	語文} 講義・演習	8	16	24
	専攻外国語 { 第1課程 第2課程 第3課程 第4課程	10 10	10 10	40
	卒業論文		8	8
兼修外国語		8	8	16
専門教育科目			20	20
計		36	72	108

(第2部)

科 目		単 位 数		
		前 期	後 期	計
専攻科目	語文} 講義・演習	4	16	20
	{ 第1課程 第2課程 第3課程 第4課程 第5課程	10 10 8	6 6	40
	卒業論文		8	8
兼修外国語		8	8	16
専門教育科目			20	20
計		40	64	104

第13条 専攻科目は、前期においては専攻外国語と、その言語圏の文化

一般に関する基礎的事項について講義と演習を行い、後期においては「言語・文学」「法律・経済・商業」に分けてそれぞれ講義と演習を行う。専攻外国語は、講読・作文・会話等について前期、後期を通じて行い、第1課程より順次第4課程（第2部は第5課程）に至るものとする。

第14条 兼修外国語は、次に掲げる外国語のうちから1以上を選んで前期及び後期において、それぞれ所定の単位を履修しなければならない。その年度において履修すべき授業科目及び履修方法は、毎学年始めにこれを定める。

中国語 英語 フランス語 ドイツ語 イスパニア語
ロシア語 イタリア語 ポルトガル語 オランダ語

第15条 研究外国語は、次に掲げる外国語のうちから1以上を選んで履修することができる。

ただし、年度によって開講しない外国語がある。

A インド ヨーロッパ語族

(インド語群)	サンスクリット語	プラークリット語
パーリ語	ヒンディ語	ウルドゥ語
ベンガル語		
(イラン語群)	アヴェスタ語	古代ペルシア語
中世ペルシア語	現代ペルシア語	プシュト語
(ギリシャ語群)	古代ギリシャ語	現代ギリシャ語
(イタリック語群)	ラテン語	イタリア語
フランス語	イスパニア語	ポルトガル語
ルーマニア語	プロヴァンス語	カタロニア語
(ゲルマン語群)	ゴート語	ドイツ語
オランダ語	英語	スウェーデン語
ノールウェイ語	デンマーク語	
(スラブ語群)	古代ブルガリア語	(教会スラブ語)
ロシア語	白ロシア語	ウクライナ語
ポーランド語	チェック語	ブルガリア語
セルビア語		

(ケルト語群) アイルランド語

B ウラル・アルタイ語族

フィンランド語 ハンガリア語 トルコ語
ウイグル語 モンゴル語 満洲語
朝鮮語

C セム語族

アッカド語 アラビア語 ヘブライ語
アラム語

D インドシナ語族

中国語(北京語) 中国語諸方言 タイ語
ラーオ語 チベット語 ビルマ語

E オーストロネシア語族

インドネシア語 ジャワ語 タガログ語

F ドラヴィダ語族

タミール語

G その他

ヴェトナム語 クメール語 アイヌ語
スワヒリー語 アメリカ土語 エスペラント

第16条 専門教育科目は、次に掲げる科目のうちから5科目(20単位)

以上を選んで、後期2年間に履修しなければならない。

A 言語文学部門

哲 学	世界思想史	東洋思想史	西洋思想史
宗 教 学	美 学	社会心理学	史学概論
国 史 学	東洋史学	西洋史学	世界近世史学
史 学 史	地 誌	民俗学	言語学
文 学	国語学	国文学	新聞学

B 法律経済部門

憲 法	行政法	国際法	民 法
商 法	社会法	経済法	外交史
国際関係論	社会学	経済学	経済学史

経済史	経済地理学	財政学	統計学
経済・経営数学	金融論	産業経済論	商業経済論
国際経済論	経済政策	社会政策	経営学
商品学	簿記論	会計学	配給論
貿易論	貿易実践	交通論	保険論
外国為替論	外国経済事情		

C 教職部門

教育原理	教育心理学	青年心理学	教科教育法
教育実習	教育哲学	教育史	教育社会学
教育行政学	教育統計学	図書館学	道德教育の研究

その年度において履修すべき専門教育科目及び履修方法は毎学年始めにこれを定める。

第17条 体育科目は、講義及び実技についてそれぞれ2単位とし、前期2年間（第2部は3年間）において履修しなければならない。

第4章 入学・退学・復学及び転学

第18条 学生の入学期は学年の始めとする。

第19条 入学を志願できる者は次の各号の1に該当するものでなければならない。

- 1 高等学校卒業生
- 2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- 3 文部大臣において大学入学の資格があると認められた者

第20条 入学を許可される者は、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

入学試験に関する規則はその都度これを定める。

第21条 次に掲げる者は、前条の規定にかかわらず選考の上相当の課程に入学を許可することがある。

- 1 退学した者で退学後2年以内に同一の学科に再入学を志願する者
- 2 他の大学から転学を志願する者
- 3 大学及び短期大学卒業生

第22条 入学試験に合格した者は定められた期日までに、入学料、本学所定の誓約書及び保証書、戸籍抄本並びに卒業証明書を差出さなければならない。前項の手続きを履行しない者は、入学を許可しないことがある。

第23条 退学しようとする者は、その事由を記し保証人連署の退学願を差出し、学長の許可を得なければならない。

第24条 次の各号の1に該当する者で成業の見込がないと認められるものには退学を命ずることがある。

- 1 学力劣等又は身体虚弱な者
- 2 正当の理由がなくて欠席長期にわたる者又は出席極めて不規則な者

第25条 病気その他止むを得ない事由によって3カ月以上修学すること困難な場合は、その事由を証する書類を添え、1年以内を限って保証人連署で休学を願出ることが出来る。ただし、特別の事情ある場合は、前項の手続を経て更に1年以内休学を願出ることが出来る。

第26条 特別の必要があると認めた者には休学を命ずることがある。

第27条 在学中、他の大学に入学又は転学しようとする者は学長の許可を受けなければならない。

第28条 学生は7年(第2部は9年)を超えて在学することは出来ない。ただし、休学期間は在学年数に通算しない。

第5章 試験及び卒業

第29条 各授業科目修了の認定は試験によって決定する。

第30条 試験は科目試験及び卒業論文による。

科目試験は当該科目の履修の年間に行い、卒業論文は卒業の年に課するものとする。

科目試験及び卒業論文に関する規定は、別にこれを定める。

第31条 試験の成績は、各科目及び卒業論文につき、それぞれ100点を以て満点とし、60点以上を合格とする。

合格点を得たる学科科目に対しては所定の単位を与える。

第32条 本学に4年以上(第2部は5年以上)在学し、所定の試験に合

格した者には卒業証書を授与し、文学士と称することを認める。

第6章 外国人学生及び聴講生

第33条 外国人であって本学に入学を志願する者あるときは、選考の上入学を許可することがある。

第34条 本学所設の学科目の中、1科目又は数科目を選んで履修を願出る者があるときは、授業上差支ない場合に限り選考の上聴講生として入学を許可することがある。聴講生の在学期間は1年とする。

第35条 外国人学生及び聴講生に関しては、法令その他特別の規定のない限り、本学の諸規定を準用する。

第7章 専攻科

第36条 大学教育の基礎の上に、外国の言語及び文化に関して更に高度にして精深な学識と研究能力を与え、専攻分野における指導的人材を育成することを目的として第1部に専攻科を置く。

第37条 専攻学科及び学生定員は次の通りとする。

中国語専攻	3名
朝鮮語専攻	2名
モンゴル語専攻	1名
インドネシア語専攻	2名
インド・パキスタン語専攻	2名
タイ語専攻	2名
ビルマ語専攻	1名
アラビア語専攻	1名
ペルシア語専攻	2名
英語専攻	3名
ドイツ語専攻	2名
フランス語専攻	2名
イタリア語	2名
イスパニア語専攻	3名
ロシア語専攻	2名

第38条 専攻科に入学を許可される者は次の各号の1に該当するものであって、別に定める入学考査に合格した者でなければならない。

- 1 大学を卒業した者

2 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

第39条 専攻科の修業年限は1年とする。

第40条 専攻科の授業科目及び履修方法は別に定める。

第41条 専攻科に入学を志願する者は、入学願書に入学検定料金3,000円を添えて提出しなければならない。

第42条 専攻科において所定の単位を修得した者には修了証書を授与する。

第43条 専攻科学生に関しては本章に定めるものの外法令その他特別の規定のない限り、本学の諸規定を準用する。

第8章 入学科及び授業料

第44条 入学試験に合格した者は次の通り入学料を納付しなければならない。

第 1 部 金4,000円 専攻科 金4,000円

第 2 部 金4,000円 聴講生 金2,000円

第45条 授業料は次の通りとし、それぞれ2期に分けて納付しなければならない。

	年 額	期	分 納 額	納 付 期 日
第 1 部	金12,000円	第 1 期	金6,000円	4月1日から 同 30日まで
		第 2 期	金6,000円	10月1日から 同 31日まで
第 2 部	金 9,600円	第 1 期	金4,800円	4月1日から 同 30日まで
		第 2 期	金4,800円	10月1日から 同 31日まで
専 攻 科	金12,000円	第 1 期	金6,000円	4月1日から 同 30日まで
		第 2 期	金6,000円	10月1日から 同 31日まで
聴 講 生	1単位につき			
	金 400円			

第46条 家庭の事情その他特別の事由によって、前条により難い場合は

事由を具し分納又は延納を願出で学長の許可を受けなければならない。

第47条 学資の支弁が極めて困難で、成績良好、品行方正な学生に対しては願出により詮議の上授業料を減免することがある。

第48条 授業料の納付を遅延し、督促を受けてなお納付しないときは除籍する。

第49条 休学期間中は、授業料を徴収しない。ただし、各期の中途休学するものは、その期の授業料を徴収する。

第50条 休学者が期中の中途復学した場合、その期の授業料は復学当月から月割計算により算定した額を徴収する。

第51条 退学するものについては、その期の授業料を徴収する。

第52条 既納の入学料及び授業料は返付しない。

第9章 学 寮

第53条 本学に学寮をおく。

第54条 学寮に関する規則は別に定める。

第55条 寄宿料は月300円とし、毎月当月分を所定の期日までに納付しなければならない。ただし、春期又は夏期休業中の分はその休業開始前に納付しなければならない。

納付した寄宿料は返還しない。

第10章 賞 罰

第56条 学生でよくその本分を尽し、学力優秀、品行方正で他の学生の模範となる者があるときは表彰することがある。

第57条 学生で本学の規則、命令に違背し、又は学生の本分に反する行為があったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。
懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

附 則

この学則は昭和41年4月1日から施行する。

昭和43年度

授業の履修と単位の修得

本学（第1部）において4年間以上在学し、全課程を修了した者は、文学士の称号が与えられる。本学の全課程を修了するためには、本学の定めた必要な最低単位数（148単位以上）を修得しなければならない。

しかし、全課程修了の認定をうけるために必要な単位数を修得することとは、単に単位数だけを充足すればよい、ということではない。本学の定めた授業科目を本学の定めた方法によって履修し、はじめて全課程修了が認定されるのである。

授業科目は、一般教育科目・保健体育科目・専門科目に分かれ、専門科目はさらに専攻科目・兼修外国語・研究外国語・専門教育科目に分かれる。（次の「学科目・授業科目表」及び「講義題目」参照。）

また、本学ではこれらの授業科目を前期2年と後期2年の2課程に分けて履修するように定めている。

この外に、教員志望者のために、教職課程が設けられてあるが、別に詳しく説明してあるから、参照していただきたい。

下の図表は、本学の全課程を修了するために必要な授業科目とその履修学年・最低履修単位数及び単位計算基準などを示してある。諸君らはこの表を詳しく読んで、まちがいのないように授業科目を履修し必要単位を修得しなければならない。

授業科目の種別		履修年次	最低履修単位数	単位計算基準	備考
前	専攻科目	語学(講義・演習)第1課程	8	週2時間(1回)年4単位	各学科ごとの「学科目・授業科目」表及び「講義題目」を参照
		第2課程			
期	科目 <small>兼外国語 修習</small>	初級	4	週2時間(1回)年2単位	
		第1学年			
		中級	4	週2時間(1回)年2単位	
		第2学年			

前 期	一般教育科目	A 人文科学系列	第1学年 第2学年	36	週2時間(1回) 年4単位	各学科共通, 各系列ごとに3 科目を選択必修	
		B 社会科学系列					
		C 自然科学系列					
期	保健体育科目	体育概論 保健衛生	原則として第1学年	2	週2時間(1回) 半年2単位	必修	
		体育実技	第1, 2学年	2	期間中90時間 で2単位		
後 期	専 攻 科 目	語学(文化)講義・演習	第3学年 第4学年	16	週2時間(1回) 年4単位	各学科ごとの 「学科目・授業科目 表及び「講義 題目」を参照	
		専攻外国語1	第3学年 第4学年	10	原則として週 2時間(1回) 年2単位		
		卒業論文	第4学年	8			必修
	専 門 科 目	兼修外国語	上 級	第3学年 第4学年	4 4	兼修外国語上 級は週2時間 (1回)年4単位	各学科共通, 選択必修
		専 門 教 育 科 目	A 言語文学部 B 法律経済部 C 教職部門	第3学年 第4学年	20	週2時間(1回) 年4単位。但し 教育実習は 9月上旬2週 間で2単位	各学科共通, 選択必修
	研究外国語		初級	原則として 第3, 4学年			

以上の図表について、もう一度大切な点を詳しく説明する。

1. 上記の図表の単位数は、最低必要単位数であるから、可能であればこれ以上の単位数を修得してもさしつかえない。
2. 本学の全課程は、前期2年と後期2年に分けてあることは前に述べたが、前期2年をすべて修了しなければ、後期2年の課程にはいれない。学生諸君はこのことをよく注意してほしい。
3. 専攻外国語の単位の認定は、第1, 2, 3, 4課程ごとに、最低10単

位の範囲に関するかぎり包括的に取扱い、ある一つの授業科目がすぐれていても、他の授業科目の成績が不可であれば、次の課程に進むことが許されない。

4. 兼修外国語は同一外国語について、前期8単位(初級・中級)、後期8単位(上級)、合計16単位を修得することが望ましい。後期において、前期で選択した外国語とちがった外国語を選んでその初級・中級(この場合はやはり週2時間(1回)2単位として計算される)を履修してもよいが、後期の時間割の都合で必ずしも各自の希望する外国語を履修しうるとは限らない。この場合については、研究外国語で修得した単位を兼修外国語の単位に充当することが許される。
5. 後期の専門教育科目は、各自の将来の進路をよく考えて、体系的に履修することが望ましく、A・B・Cの3部門から恣意的に選択履修することは望ましくない。
6. 履修の具体的手続については、学科履修説明会において詳しく説明するから、必ず出席して説明を聴かなければならない。

昭和43年度

学 科 目 ・ 授 業 科 目

I 一般教育科目 (前期, 各学科共通)

次表の各系列について, それぞれ3科目(12単位)以上, 合計9科目(36単位)以上を選択して, 前期2年間に履修しなければならない。

一般教育科目と最低履修単位

系列	学 科 目	授 業 科 目	最低履修単位数(最低履修授業科目数)
人 文 科 学	哲 学	哲 学 A	12 (3科目)
		哲 学 B	
		論 理 学	
		倫 理 学	
		宗 教 学	
	美 術		
	言 語 学	言 語 学	
	歴 史 学	東 洋 史 学	
		東 洋 史 学 C	
		西 洋 史 学	
		国 史 学	
	文 学	文 学	
		国 語 国 文 学	
心 理 学	心 理 学		
社	法 学	法 学	
		日 本 国 憲 法	
	政 治 学	政 治 学	

会 科 学	経 济 学	経 济 学 A	1 2 (3科目)
		経 济 学 B	
		経 営 学	
		貿 易 論	
		商 業 学	
	社 会 学	社 会 学	
	人 文 地 理 学	人 文 地 理 学	
自 然 科 学	数 学	数 学 A	1 2 (3科目)
		数 学 B	
		統 計 学	
	生 物 学	生 物 学	
	特 設 科 目	自 然 科 学 史	
		地 学	
人 類 学			

II 保健体育科目 (前期, 各学科共通)

保健体育科目は、講義と実技についてそれぞれ所定の単位を前期において修得しなければならない。

保健体育科目と最低履修単位

学 科 目	授 業 科 目	最低履修単位
保 健 体 育	体 育 概 論 (1 単 位)	2
	保 健 衛 生 (1 単 位)	
	体 育 実 技	2

1 講義

- a. 体育概論及び保健衛生は前期において修得しなければならないとあるが、原則として第1学年において履修しなければならないものとする。
- b. 履修方法は履修者を2分（語科別にイ、ロに分ける）し、第1期においてイは体育概論を、ロは保健衛生を受講し、第2期においてはこれと反対の科目を受講するものとする。
- c. 授業は1週2時間8週をもって1単位とする。

2 実技

授業は1週3時間15週をもって1単位とし、前期に履修しなければならないが、本学では1週2時間45週を前期に修得しなければならないものとする。

Ⅲ 専門科目（前期、後期各学科共通）

専攻科目、兼修外国語、研究外国語および専門教育科目に分ける。

1. 専攻科目

専攻科目は、前期においては専攻外国語の実習と、その言語圏文化一般に関する基礎的事項について講義と演習を行ない、後期においてはひきつづき専攻外国語の実習を行う外、その言語圏の文化を「語学・文化」「語学・文学・文化」「語学・文学・文化・政治経済」に分けて、それぞれ講義と演習を行なう。専攻外国語は「講読・作文・会話」等について、前期・後期を通じて行ない、第1課程より順次第4課程にいたるものとする。

専攻科目において修得すべき単位数は、実習については前期・後期を通じ、各課程それぞれ10単位以上、合計40単位以上を、講義・演習については前期8単位以上、後期16単位以上、合計24単位以上を必要とする。このほか卒業論文8単位を取得しなければならない。

専攻科目と最低履修単位

第1表 中国語学科・英語学科・イスパニア語学科共通

学 科	学 科 目	授 業 科 目	期 別			後 期		
			前 期			後 期		
			第1 課程 実習	第2 課程 実習	講義 演習	第3 課程 実習	第4 課程 実習	講 義 演 習
学 科	語 学	～ 語	10	10	8	10	10	16
		語学概論						
		語史 特殊研究						
	文 学	文学概論						
		文学史 特殊研究						
		16						
	文 化	文化概論						
		文化史 特殊研究						
		16						
	政 治 経 済	政治経済概論						
		政治・経済史 特殊研究						
	最低履修単位							
			28			36		

第4表 朝鮮語学科・イタリア語学科・デンマーク語学科共通

学科目	授業科目	前 期			後 期		
		第1課程	第2課程	講 義	第3課程	第4課程	講 義
		実習	実習	演 習	実習	実習	演 習
学 文 化 科	語学概論						
	語学史						16
	語学特殊研究						
	文学概論						
	文学史	10	10	8	10	10	16
	文学特殊研究						
	文化概論						
	文化史						16
	文化特殊研究						
	政治経済概論						
政治・経済史						16	
政治・経済特殊研究							
最低履修単位		10	10	8	10	10	16
		28			36		

備考：第2表の学科目「文化」は「政治経済」を，第3表の学科目「語学」は「文学」を，「文化」は「政治経済」をそれぞれ含む。また第4表の学科目「語学文化」は「文学政治経済」を含むものとする。

2. 兼修外国語

次の表に掲げる外国語のうちから、前期・後期においてそれぞれ8単位以上、合計16単位以上を修得しなければならない。

(研究外国語，教職課程参照)

兼修外国語科目最低履修単位

学 科 目	授 業 科 目	最低履修単位数
中 国 語	中 国 語	16 (前期8) (後期8)
英 語	英 語	
ド イ ツ 語	ド イ ツ 語	
フ ラ ン ス 語	フ ラ ン ス 語	
イ タ リ ア 語	イ タ リ ア 語	
イ ス パ ニ ア 語	イ ス パ ニ ア 語	
ロ シ ア 語	ロ シ ア 語	
ポ ル ト ガ ル 語	ポ ル ト ガ ル 語	

3. 専門教育科目 (後期各学科共通)

次の表に掲げる授業科目のうちから5科目(20単位)以上を選んで、後期2年間に履修しなければならない。教育心理学，青年心理学，教育社会学，道德教育の研究，外国経済事情の一部等は半年講義，他はすべて通年講義，特に記したものを以外は4単位である。

		經濟・經營数学
		經營学
		商品学
		簿記論
		会計学
		貿易実務
		交通論
		配給論
		外国為替論
		外国經濟事情
	特設科目	地誌学
		民俗学
		新聞学 A
		新聞学 B
教 職 部 門	教 育 学	教育原理
		教科教育法 (3 単位)
		教育実習 (2 単位)
		教育社会学 (2 単位)
		道德教育の研究 (2 単位)
		図書館学 (4 または 2 単位)
	教育心理学	教育心理学 (2 単位)
		青年心理学 (2 単位)

4. 研究外国語 (自由選択, 各学科共通)

次の表に掲げる外国語のうちから1以上を選んで履修することができる。1週2時間1カ年打ち切り, 2単位の授業である。

	科 目	単 位 数
研 究 外 国 語	サ ン ス ク リ ッ ト 語	2
	パ ー リ 語	
	ラ テ ン 語	
	ギ リ シ ヤ 語	
	プ ロ バ ン ス 語	
	エ ス ペ ラ ン ト	
	ヘ ブ ラ イ 語	
	ア ラ ム 語	
	デ ン マ ー ク 語	
	ス ウ ェ ー デ ン 語	
	オ ラ ン ダ 語	
	カ ン ボ ジ ア 語	
	チ エ ッ ク 語	
	ス ワ ヒ リ ー 語	
ベ ト ナ ム 語		

研究外国語

授業科目	題 目	種別	教官名	毎週 時数	単位	備 考
サンスクリット語	初級サンスクリット語	実習	村 田	2	2	
パーリ語	初級パーリ語	〃	村 田	2	2	
ラテン語	初級ラテン語	〃	川 崎	2	2	
エスペラント語	初級エスペラント語	〃	川 崎	2	2	ギリシア語と隔年講義
ヘブライ語	初級ヘブライ語	〃	伴	2	2	
アラム語	初級アラム語	〃	伴	2	2	
デンマーク語	初級デンマーク語	〃	菅 原	2	2	
スウェーデン語	初級スウェーデン語	〃	小 室	2	2	
	中級スウェーデン語	〃	小 室	2	2	
〃オランダ語	初級オランダ語	〃	徳	2	2	
スワヒリ語	初級スワヒリ語	〃	五 島	2	2	
ポーランド語	初級ポーランド語	〃	小 野	2	2	チエツコ語と隔年講義
ノルウェー語	初級ノルウェー語	〃	菅 原	2	2	

専攻科目

中国語学

前 後 期	課程 科目	授業科目	題 目	種別	教官名	毎週 時数	単位	備 考		
前 1 課 程	語学	中国語	中国語初級(発音・会話・作文)	a組	実習	伊地智	6	} 必修		
				b組			大河内		6	
			発音・会話	a組	実習	金	2			
				b組		金	2			
			文型練習	a組	実習	小林	2			
				b組		小林	2			
			L.L.	a組	実習	上神	2			
				b組		上神	2			
			文化	文化概論	中国の社会と文化	講義	芝池		2	4
			第 2 課 程	語学	中国語	中国語中級(発音・会話・作文)	a組		実習	相浦
b組	緒方	4								
会話・作文	a組	実習				金	2			
	b組					金	2			
講読I:	a組	実習				住田	2			
	b組					芝池	2			
講読II: 唐詩三百首 a. b組合併	実習	辻本				2				
語学概論	中国語学概説	講義	大河内	2	4					
後 第 3 課 程	語学	中国語	会 話	a組	実習	彭	2	} 必修		
				b組			彭		2	
			作文・書取	a組	実習	彭	2			
				b組		彭	2			

後 第 3 課 程 期	語学	中国語	応用文	}a組 b組	実習	住田	2	2	}必修 }選択 }必修 }3・4年 }共通 }選択 }選択	
							住田	2		2
		語学史	中国語学史		講義	辻本	2	4		
		特殊研究	中国語学研究		演習	伊地智	2	4		
		特殊研究	講読：		実習	金	2	2		
		特殊研究	広東語		実習	清水	2	2		
		文学史	中国文学史		講義	相浦	2	4		
		文学特殊研究	中国文学研究		演習	相浦	2	4		
		特殊研究	講読：「現代文学作品」		実習	相浦	2	2		
		文化史	中国近代史		講義	彭	2	4		
	文化特殊研究	中国近代史研究		演習	林	2	4			
	特殊研究	講読：世説新語		実習	辻本	2	2			
	政治・経済	中国貿易概論		講義	住田	2	4			
	政治・経済	中国経済史		講義	芝池	2	4			
	特殊研究	中国貿易研究		演習	住田	2	4			
	特殊研究	中国経済研究		演習	芝池	2	4			
	特殊研究	講読：		実習	芝池	2	2			
	第 4 課 程	中国語	会話	}a組 b組	実習	金	2	2	}必修 }選択 }必修 }3・4年 }共通 }選択	
			作文・書取	}a組 b組	実習	彭	2	2		
			彭							2
語学史		中国語学史		講義	辻本	2	4			
特殊研究		中国語学研究		演習	伊地智	2	4			
特殊研究	広東語		実習	清水	2	2				

後 第 4 課 程 期	文学	文学史	中国文学史	講義	相浦	2	4	} 3・4年 必修 共通	
		特殊研究	中国文学研究	演習	相浦	2	4		
		特殊研究	講読：	実習	相浦	2	2		選択
	文化	文化史	中国近代史	講義	彭	2	4	} 3・4年 必修 共通	
		特殊研究	中国近代史研究	演習	林	2	4		
		特殊研究	講読：中国文化常識	実習	辻本	2	2		選択
	政治・経 济概論 政治・経 济史	政治	特殊研究	中国貿易概論	講義	住田	2	4	} 3・4年 必修 共通
			特殊研究	中国經濟史	講義	芝池	2	4	
		經濟	特殊研究	中国貿易研究	演習	住田	2	4	
			特殊研究	中国經濟研究	演習	芝池	2	4	
			特殊研究	講読：	実習	芝池	2	2	
	特殊研究	応用文	実習	住田	2	2	選択		

朝鮮語学科

前後用	課程	学科	授業科目	題 目	種別	教官名	毎週 時数	単 位	備 考
前 第 1 課 程	語学 文化	朝鮮語	朝鮮語	講読：朝鮮語教科書	実習	金思燁	2	2	} 必修
				講読：	実習	南方	2	2	
				講読：	実習	小野田	2	2	
				文法	実習	塚本	2	2	
				会話 (L.L.)	実習	金東勲	2	2	
文化概論	朝鮮語と朝鮮民族	講義	塚本	2	4				
期 第 2 課 程	朝鮮語	朝鮮語	朝鮮語	講読：現代文選	実習	金思燁	2	2	} 必修
				講読：李光洙作品集	実習	塚本	2	2	
				講読：現代文選	実習	北嶋	2	2	
				作文：書簡文	実習	金思燁	2	2	

後 期	第 3 課 程	語学	中国語	応用文	} a組 b組	実習	住田	2	2	} 必修 選択 必修 3・4年 共通 選択 選択
			語学史			中国語学史	講義	辻本	2	
			特殊研究	中国語学研究	演習	伊地智	2	4		
			特殊研究	講読：	実習	金	2	2		
			特殊研究	広東語	実習	清水	2	2		
		文学	文学史	中国文学史	講義	相浦	2	4	} 選択 必修 3・4年 共通 選択	
			特殊研究	中国文学研究	演習	相浦	2	4		
			特殊研究	講読：「現代文学作品」	実習	相浦	2	2		
		文化	文化史	中国近代史	講義	彭	2	4	} 選択 必修 3・4年 共通 選択	
			特殊研究	中国近代史研究	演習	林	2	4		
	特殊研究		講読：世説新語	実習	辻本	2	2			
	政治 経済	政治・ 経済 概論	中国貿易概論	講義	住田	2	4	} 選択 必修 3・4 年 共通 選択		
			中国経済史	講義	芝池	2	4			
		特殊研究	中国貿易研究	演習	住田	2	4			
			中国経済研究	演習	芝池	2	4			
			講読：	実習	芝池	2	2			
	第 4 課 程	語学	中国語	会話	} a組 b組	実習	金	2	2	} 必修 選択 必修 3・4年 共通 選択
				作文・書取		} a組 b組	実習	彭	2	
			語学史	中国語学史	講義		辻本	2	4	
			特殊研究	中国語学研究	演習	伊地智	2	4		
特殊研究		広東語	実習	清水	2	2				

後 第 4 課 程 期	文 學	文 學 史	中国文学史	講義	相 浦	2	4	} 選 修 必 修 3·4 年 共 通
		特殊研究	中国文学研究	演習	相 浦	2	4	
		特殊研究	講読：	実習	相 浦	2	2	
	文 化	文 化 史	中国近代史	講義	彭	2	4	} 選 修 必 修 3·4 年 共 通
		特殊研究	中国近代史研究	演習	林	2	4	
		特殊研究	講読：中国文化常識	実習	辻 本	2	2	
	政 治 經 濟	政治・經 濟概論	中国貿易概論	講義	住 田	2	4	} 選 修 必 修 3·4 年 共 通
		政治・經 濟史	中国經濟史	講義	芝 池	2	4	
		特殊研究	中国貿易研究	演習	住 田	2	4	
		特殊研究	中国經濟研究	演習	芝 池	2	4	
特殊研究		講読：	実習	芝 池	2	2	選 修	
特殊研究	応用文	実習	住 田	2	2	選 修		

朝 鮮 語 学 科

前 後 期	課 程	学 科 目	授 業 科 目	題 目	種 別	教 官 名	毎 週 時 數	單 位	備 考
前 第 1 課 程	語 学 文 化	朝 鮮 語	朝 鮮 語	講読：朝鮮語教科書	実習	金思燁	2	2	} 必 修
				講読：	実習	南 方	2	2	
				講読：	実習	小野田	2	2	
				文法	実習	塚 本	2	2	
				会話 (L.L.)	実習	金東勲	2	2	
	文化概論	朝鮮語と朝鮮民族	講義	塚 本	2	4			
期 第 2 課 程	朝 鮮 語	朝 鮮 語	朝 鮮 語	講読：現代文選	実習	金思燁	2	2	} 必 修
				講読：李光洙作品集	実習	塚 本	2	2	
				講読：現代文選	実習	北 嶋	2	2	
				作文：書簡文	実習	金思燁	2	2	

職 員 組 織

学 長 金子二郎

本 部

学生部長	(併任)教授	伊地智善継
教務課長	文部事務官	
学生課長	(併任)教授	鳴川六司
事務局長	文部事務官	三宅能正
庶務課長	文部事務官	飯塚保男
会計課長	文部事務官	武政金太郎

附属図書館

館 長	(併任)教授	畠中敏郎
事務長	文部事務官	出口安正

学科主任

中国語学科	教授	住田照夫
朝鮮語学科	助教授	塚本 勲
モンゴル語学科	助教授	荒井伸一
インドネシア語学科	教授	中西龍雄
インド・パキスタン語学科	助教授	加賀谷 寛
タイ語学科	教授	富田竹二郎
ビルマ語学科	教授	服部正一
アラビア語学科	教授	伴 康哉
ペルシア語学科	助教授	井本英一
英語学科	教授	片山忠雄

ドイツ語学科	教授	牧	祥	三
デンマーク語学科	(兼担)教授	大谷	長	
フランス語学科	教授	島中	敏郎	
イタリア語学科	教授	宮本	幸三郎	
イスパニア語学科	教授	角田	理三郎	
ロシア語学科	教授	高橋	輝正	

常置委員会 (同職間ABC順)

教務委員会委員	教授	伴	康哉	
	"	廣實	源太郎	
	"	世古口	雄三	
	"	嶋田	昇平	
	助教授	井本	英一	
	"	池田	廉	
	"	金山	崇	
	"	緒方	一男	
学生委員会委員	助教授	荒谷	次郎	
	"	法橋	和彦	
	"	村田	忠兵衛	
	講師	布施	俊夫	
	"	岡本	武	
	"	辻	忠	
	"	寺村	秀夫	
	"	吉川	利治	
図書委員会委員	教授	相浦	杲好	
	"	長谷川	信	
	"	八木	浩	

庶務委員会委員

会計委員会委員

助教授	田 辺	保
”	山 本	み ち
講 師	好 田	實
”	森 本	久 夫
”	大河内	康 憲
教 授	安 部	浜 男
”	羽 田	三 郎
”	水 嶋	香 東 士
”	中 西	龍 雄
”	中 原	俊 夫
”	中 芝	池 靖 夫
講 師	森 岡	治 夫
”	正 木	恒 夫
教 授	沢 村	栄 治 彦
”	辻 本	崎 春 俊
”	山 崎	賀 俊 夫
助教授	葉 賀	明 猛
”	勝 藤	浩 二
”	大 井	善 順
”	山 田	善 順
”	山 本	順 一

教 官 (学科主任を除き, 同職間ABC順)

中国語学科

教 授	住 田	照 夫
”	相 浦	泉 三
”	伊地智	善 武
”	小 林	武 三

教授	芝池	靖夫
〃	辻本	春彦
助教授	中川	俊
〃	緒方	一男
講師	大河内	康憲
非常勤講師	林	要三
〃	上神	忠彦
〃	清水	茂
客員教授	金	毓本
〃	彭	沢周
助教授	塚本	勲
〃	井口	和起
非常勤講師	井上	秀雄
〃	北嶋	静江
〃	小野田	求
〃	岡崎	精郎
〃	南方	嘉平
〃	笹川	儀三郎
〃	佐々木	隆爾
客員教授	金	思燁
外国人講師	金	東勲
助教授	荒井	伸一
講師	小貫	雅男
非常勤講師	精松	源一
〃	宇野	一章
〃	内田	吟風
教授	中西	龍雄
〃	森村	蕃

朝鮮語学科

モンゴル語学科

インドネシア語学科